

平成23年度個別施策ヒアリング資料(優先度判定)【国土交通省】

施策番号	28101	施策名		気候変動に対応したゲリラ豪雨(局地的大雨)対策に関する研究			
新規/継続	継続	領域	グリーン・イノベーション	国際的位 置付け	世界最先 端	AP施策	○
競争的資金		e-Rad		社会還元			
施策の目的 及び概要	ゲリラ豪雨(局地的大雨)に関する研究開発を実施することにより、洪水・浸水の監視・予測の高度化等を行い、大雨に関する気候変動適応策に資するとともに、国民の安全・安心の確保を推進する						
達成目標 及び 達成期限	平成25年度までに、各種レーダーによる局地的現象の監視技術を応用した、新たなレーダーの導入を行う。他の観測機器についても新たな方式について検討を行う。衛星等を用いた観測システムにも注目し、その研究開発を通じた監視体制の整備を目標とする。						
研究開発 目標 及び達成 期限	半日から1日先の確率分布予測情報が提供可能となるよう、研究を推進する。(2020年度)						
23年度の 研究開発 目標	観測・監視技術開発に必要な観測装置(GPS受信装置・VHF雷センサー等)を整備し、局地的大雨の監視・直前予測に関する技術開発を実施する。						
施策の重 要性	ゲリラ豪雨(局地的大雨)に対して、観測・監視技術の高度化・早期の情報提供等を通じて、適切な防災活動や河川管理・国民が自ら身を守るための行動を支援するために重要な施策である。						
実施体制	施策の実施にあたっては、文部科学省と連携し、地球観測データの活用を図る。得られた成果については、ゲリラ豪雨(局地的大雨)監視への活用を図る						
H22予算額(百万円)				H23概算要求額(百万円)			
10				14			
独立行政法人名(運営費交付金施策のみ)							
H23概算要 求額の内 訳	試験研究旅費:1 試験研究費:13 【主な内訳】 ・機器購入費:12 ・消耗品及び雑役務費:1 0						
期間	H22~H25			資金投入規模(億円)			
これまでの 成果 (継続の み)	平成23年度の出水期に向け、雷や地上付近の水蒸気量を測定する観測装置の整備を進めている。過去に発生した豪雨事例について、予測モデルによる再現計算と予測精度の検証を行っている。						
社会情勢・ 技術の変 化(継続の み)	練馬豪雨や都賀川での水害など、局地的な短時間豪雨による物的、人的被害が発生しており、気候変動に伴う局地的大雨の増加が懸念されている。一方、レーダー観測技術の発達により、地域的に詳細な降水観測が可能となっており、予測モデルの高分解能化により、局地的大雨に対する予測情報の提供可能性も出てきている。						

昨年度優先度判定 (継続のみ)	—	優先度判定時の指摘への対応(継続のみ)	—
国民との科学・技術対話推進への対応(対象施策のみ)	—		